

# 理事長の頭の中

Chairman of Chitosekai Group  
by Hiromasa Hidari



VOL.154. 2019. 5月号

## 「冒険」

年々花粉がひどくなってくる。。年号が令和になりGWも重なりお祭りムードになった。本来は、崩御での年号がかわる歴史の中で、祝賀できる年号の変わり目は一生ないだろう。貴重な5月を体験した。

さて、いきなり僕の回想録。

中学の卒業式を終え、高校入学までの空いてる時間に欲しかったマウンテンバイクを買った。

ジャンプの懸賞の1位に、マウンテンバイクが懸賞品であった。オイルサスペンションのカッコいいやつ。

それがほしくて、当時ジャンプの発行部数は500万部超えのなか、

ハガキを百枚買って、手書きでイラスト書いてコメント書いて1週間で、50枚なんとか仕上げ、懸賞に応募した。

残りの五十枚は、書き損じたり間に合わなかった、、あの五十枚も出せてたら当選してたのかも。

ということで、欲しかったマウンテンバイクを、10年分のお年玉を軍資金に買った！当時まだ15歳。

そんなに遠くに行ったこともないし勇気も無い。頑張っただけの道のりをひたすら直進してみたりぐるぐる近くを回るだけだった。そんなある日、地図を眺めていたら、国道17号線をまっすぐ行くと新潟に着くことができることに気づいた。もう春休み。そこで、計画を練った。

次の日にひたすらまっすぐ僕の愛車で新潟に行こうと。カバンに着替えを詰め、軍資金、一万円を手にし、父と母に新潟行ってくると伝えた。両親は、多分そうとう不安だったか、1日で僕が引きかえして帰ってくるとおもったのだろう。

父から饞別に、日本道路地図をもらった。これが意外にでかくて、重い。後々のトラブルの元凶になる。

さー！出発！！一日目。

朝8時に愛車とともに国道17号線を走り続けた。昼にどこかの駅らへんで、踏切まちをしていた僕に原付のおっちゃんに怒鳴ら喧嘩を売られた記憶が鮮明に思い出される。

いまでも、なぜキレられたのか疑問でただただ、コエ〜と今もあの周辺にいくとビビる。

そして、昼を過ぎた頃、少し雨が降り出した。

当時のマウンテンバイクには、泥よけをつけてなかったので、背中と顔が泥だらけ。

いよいよ雨が激しくなりカッパも搭載してなかったので、途中で雨宿り。三月の雨はまだ冷たすぎ。

そこで、軍資金を使い近くのホテル聴きながら探し東横インに泊まることに。

早速、軍資金が3,500円に。。計画を練り直さねば。

出た計画は、次の日から寝ずに走り続けるというもの。

次の日の早朝、

17号線をショートカットする国道を地図上で見つけた。ほぼ山越え。17号線から国道291(うる覚え。)へ。けど少し不安要素があった。

父から賤別にもらった地図は、12年前の道路地図だった。。

国道291は、山の頂上らへんで、地図標示が点線になっていた。まー。12年経ってれば道路はつながってるだろうと、安易に出発した。

つながってなかった。。

泣く泣く引き帰すことに、スキー帰りのカップルが楽しそうに車の中から手を振ってくれたり。

トンネルの中の、後ろからダンプカーの轟音の恐怖を感じたり。

五時間の格闘が水の泡に。日が暮れだした。走ってたらすれちがいに途中で車が止まった。

「お兄ちゃんどこ行くの??」

「寝ずに新潟までいきます！」

「凍死しちゃうよ。そして、ここは高速の出口の道路だから戻りなさい」と。

引き返したら、声をかけてくれた車が待っていてくれた。

「泊まる場所あるの?」

「ないです」

「では、うちに来なさい」と。

親に相談しますとつたえ、近くの消防署に避難。そこで電話を借りて泊まるかどうするかを相談した。

もちろん、NG。そこで、消防隊員の方にビジネスホテルを探してもらった。

その道中に、その人が「おーい。こっちこっち」と、

見つかってしまった、、その軽トラックの後ろに、僕の愛車をのせて、僕は助手席に。

15歳だった僕は、完全に誘拐されたと、腹をくくって乗り込んだ。。真っ暗な畑道。もう観念した、、

ぼつんと家の明かりが。出迎えてくれたのは、小学校三年生の男の子。そこは、佐藤さんの家。三人家族。

まずは、佐藤さんの奥さんが、親御さんたち心配してると思うから、家に電話してと。

そのあと、親同士の電話越しでの挨拶。お風呂を沸かしてもらい。男の子と一緒に風呂に入った。

風呂上がり、ステーキが用意されてた。たらふく食べて、子供部屋で一緒にねた。

絵本を読んでくれとせがまれながら、幸せ時間。

次の日、朝ご飯食べて、おにぎり三個と沢庵をもらい、さー！三国峠を越える心構えと精神が。

小三のかれは、少しさみしそう。初めてのホームステイ。暖かさを体験。そして三日目。

三国峠の心臓破り。6時間の格闘。そこでみた、景色。肌寒い心地いい風を受けながら、おにぎりを頬張った。

そのお米の甘い味は、一生忘れない。

もし死ぬとき最後食べたいものは？ときかかれたら、口いっぱいにお米をポロポロこぼしながら死にたいとおもう。

そして、とうとう、三国峠を越え新潟に！

当時従兄弟のに一ちゃんが新潟に住んでいたの、県境で僕を待っていてくれた。

1週間、に一ちゃんの家滞りし、僕の初めての長期cyclingの冒険は終わった。

帰りはどうしたか？

クロネコヤマトに自転車を着払い。僕はお金ないので、駅長さんに交渉して、上野駅で、親が電車賃を払うということで乗せてもらった。着払い料金が、僕の電車賃を超えていたことを思い出した。

良い出会い、ご縁をもらうときがある。

必死に真剣に何かをなす決意が、周りの方に伝わり声をかけてくれる体験は、大人でも子供でも同じだと。



フェイスブック始めました。  
お友達申請お待ちしております。

社会福祉法人 千歳会  
理事長 左 敬真

